

検討会意見の整理

【検討会意見の整理】 1. 学校規模適正化の目的

〔全体的な考え方について〕

- 子どもたちにとって、大人になるにあたって今どうすればよいかということ子どもたちを真ん中にして、あり方を考えてほしい
- SDGs やウェルビーイングの視点も考慮して、学校規模適正化を考えていく必要がある
- 全ての人が納得するのは難しいが、前もって、市の将来的なビジョンとも組み合わせたい
- 今までにない教育、北九州市はチャレンジしているところを全国にアピールしてほしい。北九州市は子育て日本一だということを謳っているので、それに見合ったソフト面・ハード面になるような適正化をやっていただきたい

【検討会意見の整理】 1. 学校規模適正化の目的

〔学校規模適正化の目的について〕

- 適正化＝合理化にならないようにしてほしいという思いがある。予算の都合という部分や人数だけでなく、どういう教育をするのが子どもたちに一番適正なのかというのを芯にして考えていただきたい
- 学校規模適正化は、財政面ではなく、教育環境の整備による教育効果の向上を図ることを目的に実施しているとメッセージとして出していく必要がある
- ICT教育、特別支援教育、防災など、学校の役割が多様化しており、学校規模により、教育活動が制約されないように検討する必要がある

【検討会意見の整理】 2. 学校規模適正化の取組の視点

〔全般的な内容について〕

- ICT教育、インクルーシブ教育、防災など、社会環境の変化が進んでいる中で、より幅広く検討するという視点を入れる必要がある
- 学校・子どもの教育といった部分と、地域、学校の歴史といったところを大事にしていけないといけない
- 「児童や生徒がいること」と、「学校の施設があること」はおそらく違うので、学校の役割や、施設があることの効果を考えていく必要がある

〔特別支援教育について〕

- 多様な教育的ニーズを持ち合わせている児童生徒にとって、大きな環境の変化は負担となることもあり、特に配慮が必要である
- 多様なニーズに対応できる体制を整えていくために、早い段階で関係部局との調整を行うことが重要である
- 特別支援教育の視点から、小中一貫教育校のメリットは大きいと思う。場合によっては負担になるところもあるのではないかと思うが、このようなメリットについて情報提供があれば、進学先として考える方も多くいると思う

【検討会意見の整理】 2. 学校規模適正化の取組の視点

〔放課後児童クラブについて〕

- 学校統合になれば、学童も統合などになる。子どもたちも不安だと思うので、きめ細やかな対応が必要
- 学校規模適正化の説明会を行ったうえで、学童を利用される保護者のみを集めていただいて、運営のやり方や指導員の配置など、保護者の方が不安にならないような形を入れていただきたい
- 子どもの支援は、学校が変わっても、子どもが増えても、対応できる形にしないとイケない

〔部活動について〕

- 職員数等の関係で、部活動数が限られている学校もあり、子どもたちのニーズに応じた多様な部活動の選択の機会が確保されるとよい
- クラス数が少なくなっていたり、児童・生徒数が少なくなっていたりすると選べる部活動が少なくなり、小規模校がゆえに自由度が失われているというところもある

【検討会意見の整理】 2. 学校規模適正化の取組の視点

〔施設について〕

- 老朽化している施設はどのように対処していくのかというところも、適正化を進める上ではポイントである
- よりよい教育環境のための施策を行ってほしい。学校施設は老朽化が激しいと聞いている。予算をしっかりとって、先進的な教育が受けられる施設が増えれば、教員のなり手も増えると思う

〔防災について〕

- 防災の観点で、地震時などは学校が避難所になるということもある

【検討会意見の整理】 2. 学校規模適正化の取組の視点

〔関係部局との連携について〕

- 検討会で出た意見については、内容に応じて事務局の方から各担当部局に伝達しないし調整を図っていただきたい
- 市役所の他部局や各区役所との関連性があるので、市長事務部局（子ども家庭局、市民文化スポーツ局等）としっかり連携しながら取り組んでいただきたい
- 多様なニーズに対応できる体制を整えていくことを考えると、早いうちに関係部署との共同・連携で方向性を決めていただくことが望ましい

【検討会意見の整理】 3. 適正な学校規模の考え方

〔全般的な内容について〕

- 小規模校も適正規模校でも大規模校でも、子どもたちは自分の学校が大好きで、楽しく学校に通っているのは事実だが、子どもたちが大人になるにあたり、限られた人数の中で、多様な価値観を受け止め、さまざまな人と折り合いをつけながら、生きていくことができるのかというのは感じる
- 教育活動の展開を考えると、どのくらいの学級数が必要だということは、出していく必要があると思う
- 学級数が少なくなることによって、教職員の数も少なくなっていくというような課題が出てくると思うので、そこをもう一度整理することは必要だと思う
- やはり今、先生の負担がすごいと思う。辞めていく先生も多いので、小中学校の先生も少しゆとりが持てるようにしていただければ、先生の負担が軽くなると思う

【検討会意見の整理】 3. 適正な学校規模の考え方

〔学習・生活面について〕

- ICT教育やインクルーシブ教育など、いろいろな面で学校の役割が多様化していることを考えると、小規模校では対応し難くなっている
- 小規模校ではクラス替えがないことから交友関係が限られ、トラブル等でこじれてしまった場合、なかなか修復が困難であるというようなデメリットはある
- 子どもたちに、ニーズに応じた多様な部活動の選択ができる機会があるといいが、小規模校では職員数等の関係で限られてしまう
- 中学生は、特に学年ごとの発達段階が小学生に比べると加速が大きいという面もあるので、同学年同士の切磋琢磨する機会があるといい
- 小規模校では例えば、体育大会で縦割りのチーム構成とすることで、全校生徒の交流や、それぞれの学年が役割を果たすなど良い面があるが、同学年同士の切磋琢磨する機会、学級内での意見交換の機会がないというのはデメリットだと思う

【検討会意見の整理】 3. 適正な学校規模の考え方

〔指導体制面について〕

- 同じ学校の中で、同教科の先生と一緒に学び合う機会があるとよい
- 学級数が減ると職員の数も減り、9教科の教員が確保できないことがある。
教員の指導力を上げることは子どもたちの教育に直結するので、効果的なOJTができる体制を確保したい
- ベテランの学年主任と若手が組んでOJTを実施することもあり、教職員の人材育成の面からも、同学年で複数の教職員数を確保することが理想だと思う
- インクルーシブ教育を広めていかなければならないとなった時、大規模校で教員間の連携が難しくなるというのは懸念事項だと思う

【検討会意見の整理】 3. 適正な学校規模の考え方

〔学校運営面について〕

- 職員数が少なくなると1人の職員の校務分掌が多くなるので、子ども達に向き合う時間を確保するためにも、職員数がある程度確保できた方がよい
- 同学年に同教科の教員が複数いれば相談しあえるし、校務員やスタッフが多ければ子どもたちに目が行き届くので、1学年で2学級以上あった方がいいと思う

【検討会意見の整理】 4. 学校規模適正化の進め方

〔全体的な考え方について〕

- 今後人口が増えた場合、それに対して対応できるという未来、そういったメッセージを今回含めておくことが必要である
- 小中一貫校として統合するなど、あったものがただ無くなっていくのではなく、未来に向けた取組、未来を感じられるような適正化を実施してほしい
- 小中一貫教育モデル事業は非常に良い取組の一つであると思うので、学校規模適正化の取組においても、小中一貫教育校や義務教育学校の設置というのは、検討は進めていただきたいと思う
- 民間の保育所や学童と小学校を一体的に整備できると、教員も安心して学校に勤められるなど、安心したまちづくりにつながると思う
- 学校規模適正化の進め方のところは、明確に線を引くのではなく、少し幅を持たせたような記述も必要ではないかと思う

【検討会意見の整理】 4. 学校規模適正化の進め方

〔学校規模に応じた検討の視点について〕

- 少子化対策が進んで子どもが増えてくることも考えられるので、学校の新設が必要となってくることも考えておく必要がある
- 学校規模適正化で問題となるのは、似通っているような学校を統合するときであると思う

【検討会意見の整理】 5. 学校規模適正化のプロセス

〔全般的な内容について〕

- 地域活動の中心である市民センターなども関わってくるので、関係部局も含めて、地域・保護者に十分に説明、打合せをしてほしい
- 現在、各小学校区に自治連合会が一つある。自治連合会はそれぞれ施策が違うので、地域に対する説明会もしっかりしていただきたい
- P T A中心だけでなく、保護者をみんな巻き込んだ説明会をしていただきたい
- 地域や学校だけではなく、子育て世代の方にも意見を聴くことができるような方法を検討してほしい
- 学校規模適正化に子どもたちの意見を取り入れてほしい
- 小規模校を望む保護者の意見も反映されるべきではないかと思う
- 小規模校のメリット、デメリットとある中で「小規模校＝劣っている」と地域や児童生徒が思ってしまうのを避けていくためのフォローもしっかりしないと問題が出ると思う

【検討会意見の整理】 5. 学校規模適正化のプロセス

〔パターン①について〕

- 適正化をする、しないの前に、皆さんで情報共有してもらって、地域で小学校や中学校をどのように考えていくのか、今の子どもたち、将来の子どもたちの教育をどのように考えていくのかを検討してもらうものになるのではないかと感じた
- 地域への情報提供を行う際には、ただ資料を配布するのではなく、説明会を行って意見を聴取するなど、コミュニケーションが必要である
- 学校規模の適正化という言葉は、ネガティブなイメージを持たれる可能性もあると思うが、子どもの教育という視点や、学校運営といったところを打ち出し、明るく前向きな議論ができるような情報提供が重要なのかなと思う
- 地域での協議や発案ができるので望ましい形であると思うが、長い時間かけると、自分事から他人事になっていったりするなど、難しいところもあると思う
- コミュニティ・スクールを進めるのであれば、一番地域の声を大事にしていきたい

【検討会意見の整理】 5. 学校規模適正化のプロセス

〔パターン①について〕

- コーディネーターみたいなものがすごく重要なのではないかと思う
- 適正化の取組は校区をまたぐことになり、コミュニティ・スクール等で話し合った意見を教育委員会で吸い上げ、調整するのも一つの方法だと思う

〔パターン②について〕

- 現実的に検討を進めやすい形であると思うが、行政からの一方的なやり方に見えやすいので、たたき台を作成する上でも、情報提供や意見聴取を行うことを入れるなど、表現を工夫してほしい
- 小中一貫教育校等を検討する場合は、現実的にはパターン②で進めないと難しいのではないかと思う

【検討会意見の整理】 6. 学校規模適正化に伴う支援・フォロー

〔通学路・通学支援について〕

- 保護者としては、通学路が遠くなることは非常に心配している
- 特別支援を必要とする児童生徒や保護者にとって、学校が変わるということは大きな変化になる。保護者の方の負担が大きくなったり、通学路が変わったりすることへの対応は、保護者だけでは難しいことが考えられるので、学校とどう連携してやっていくのかという対応も必要になってくると思う

〔跡地活用について〕

- 跡地の活用も含めて地域のコミュニティにおいて施設がどうあるべきかが大切である

【検討会意見の整理】 6. 学校規模適正化に伴う支援・フォロー

〔適正化の効果について〕

- 適正化の効果の検証については、ビフォー・アフターの比較などの観点も必要。
「適正化によって子どもの学びがどうなったのか」、「暮らしはどうなったのか」などを適正化前後で子どもに自己評価・質問して比較することが必要だと思う
- 適正化の実際の答えが出るのは、数年後だと思う。
適正化後の学校で教育を受けて「後々思ったらどうだった」などの方が、実際の声が上がってくると思う

【検討会意見の整理】 6. 学校規模適正化に伴う支援・フォロー

【フォローについて】

- 適正化の対象となった児童生徒が不安なく学校生活を送っていくことは重要なので、不安に感じるところは少しでも解消できるようなプロセスが入るといいと思う
- 統合したときに問題が起こらないように、起こっても対応できるように、事前に取り組んでいくことも大切である
- 適正化が終わった後も、長年にわたってアフターフォローしてくれる体制も整えていないと、やはり納得しにくい部分もあると思う